

平成24年6月27日

平成24年度 鉄道設備投資計画について

～ 安全性、利便性向上などに総額約83億円を投資 ～

京阪電気鉄道株式会社（本社：大阪府中央区、社長：加藤好文）では、公共交通機関が果たすべき使命として、安全性、利便性と快適性のさらなる向上をめざし、毎年鉄道設備への投資を続けておりますが、このたび、平成24年度設備投資計画が決まりました。

平成24年度は、新型車両13000系の新造、新型ATSの設置に伴う工事、踏切・信号の更新、駅施設改良工事などを実施することにしており、投資総額は約83億円を予定しています。

概要は下記の通りです。

記

1. 踏切工事、運転保安工事（67億6千1百万円）

立体交差化工事

淀駅付近を中心に京阪本線約1.5kmを高架化する事業は、昨年5月の複線高架化完了により、3つの踏切道を廃止し、利便性向上、安全確保とともに、競馬開催日の混雑の解消を実現しました。引き続き、平成25年度の事業完了に向け、駅部工事、大阪方出入庫線の高架化工事を実施します。

踏切道の立体化、踏切保安施設の新設・改良

踏切障害物検知装置の更新、踏切道の構造改良、踏切自動遮断機の更新などを行います。

車両の新造・改良など

13000系車両の新造、運転状況記録装置や列車防護無線装置の新設などを行います。

線路の改良

防災対策（耐震補強含む）、道床改良、合成まくらぎ化などを行います。

電気設備の改良

新型ATSの設置（京阪線）、ホーム異常通報装置の新設、信号関係機器や連動装置の更新などを行います。

工場・検修設備の更新

寝屋川車両工場検修設備の更新などを行います。

その他

お客さまのお手伝いなどで係員が改札口不在時に、他駅の係員がインターフォンなどを活用して改札口で応対することを可能とする駅遠隔監視システムの導入などを行います。

2. サービス改善工事（15億2千8百万円）

駅施設の改良

空調設備更新、ホーム改良、案内所の新設などを行います。

バリアフリー対策

エスカレーターの更新、列車接近表示装置の整備などを行います。

その他

シートなどインテリアのグレードアップや車内案内表示器の搭載、車いすスペース設置などのバリアフリー対策を盛り込んだ8000系車両のリニューアルを引き続き行います。



8000系車両（外観）



8000系車両（内装）

以上